

自然保護委員会のあらまし

日本山岳会は明治38年（1905）に設立されて以来、一貫して山岳の自然保護の重要性を訴えてきました。こうした機運が全国的なものになり始めた昭和39年（1964）に自然保護委員会が設置されました。初代委員長はジャーナリストで当時の会長であった松方三郎が自ら兼務し、委員には山岳紀行「日本百名山」の著者で知られる作家の深田久弥、会長経験者で植物学者の武田久吉、元駐イタリア大使の日高信六郎、女性登山家の草分けの村井米子などが名を連ねました。当時の日本山岳会の意気込みがわかります。

参加方法

私たちと一緒に活動して下さる方は、下記までご連絡ください。毎月第3金曜日に日本山岳会の事務所で定例会を行っています。入会しようか迷っている方の見学もお待ちしておりますので、お気軽にどうぞ。

日本山岳会の事務所

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4

自然保護委員会のメール

jac-sizenhogo_shasin@jac1.or.jp

自然保護委員長 下野綾子

公益社団法人 日本山岳会
自然保護委員会



自然保護全国集会の開催

年に1回、各支部の自然保護委員と連携し、山岳環境の保全に関わる集会を開催しています。山岳に関わる基調講演、各支部の活動報告、フィールドスタディなどを行っています。



会報誌「木の目草の芽」の発行

年に4回、会報誌を発行し、山岳保全に関わる情報（ニホンジカの植生影響、ライチョウ保護、リニア新幹線の情報など）や、各支部の活動情報、山行や講演会の参加報告などを発信しています。

ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点に参画

日本山岳会は2024年から東北大学を代表とする共創の場形成支援プログラムに参画しました。このプログラムでは、「すべての人と社会が生物多様性の価値を認め、誇りを持ち、より豊かな恩恵を持続的に享受でき、そのための行動をしている自然調和社会」を実現する「ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点」を掲げています。現代は生物の大量絶滅時代と言われていますが、ネイチャーポジティブとは、2020年をベースラインとして、2030年までに自然の損失を停止、または反転させることです。日本山岳会は、自然保護委員会を中心に、山岳域の生物多様性の観測という課題に参画しています。山のユーザーである登山者が、産官学と協働して生物多様性をモニタリングするような仕組みづくりを目指しています。

支部と連携した山行

山梨支部が行っている三ツ峠アツモリソウ保全活動に参加しています。その他、上高地での山岳研究所を利用した山行、自然観察会なども行っています。



写真が語る山の自然—今・昔—

多くの高山地域では変化の有無を判断する科学的知見が不足しています。この不足を補えるのは、唯一過去に撮影された写真です。写真は調査記録に代わる客観的な記録となります。

そこで、環境変化の有無を検討する基盤を整えるために、過去の山岳写真を収集し、それらをデジタル化し、データベースを作成しました。



山岳団体との連携

年に6回、山岳で活動している団体（（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会、東京都山岳連盟、日本山岳ガイド協会、日本勤労者山岳連盟、山はみんなの宝、きれいな山をありがとう）と情報交換会を設けています。各団体の活動情報を共有したり、共同でシンポジウムを開催したりしています。